

エネルギー消費性能計算プログラム（非住宅版） 変更点（ Ver. 2.1.1 → Ver. 2.2.0 ）

以下の変更を行いました。

- 1) 空調設備の評価において、蓄熱がある場合の熱源運転台数算出に関する不具合を解消。
  - ◇ 蓄熱運転をする熱源群について、負荷率を強制的に 1 として全負荷相当運転時間を求めエネルギー消費量を計算しています。この際、本来であれば負荷率が 1 であるので熱源群に含まれる全ての熱源機器が運転するはずですが、負荷率を 1 に変換する前の負荷率で必要な運転台数を算出し、この台数でエネルギー消費量を計算してしまっていました（運転台数を過小に評価していた）ので修正しました。なお、これは Ver.2 にて発生した不具合であり、Ver1 系では適切に計算されています。
- 2) 空調設備の評価において、全熱交換器の風量の上限值に関する不具合を解消。
  - ◇ 標準室使用条件で決められた原単位（ $\text{m}^3/\text{m}^2\text{h}$ ）を元に算出した新鮮外気導入量とプログラムに入力された全熱交換器を通過する風量を比較して、全熱交換器の風量の方が大きい場合は、標準室使用条件から定められた新鮮外気導入量に置き換えています（新鮮外気導入量を上限値としています）。この判定式において、全熱交換器の風量は  $\text{kg/s}$ 、標準室使用条件の風量は  $\text{m}^3/\text{h}$  で比較をしていたため、修正をしました。
- 3) PAL\* を計算しない場合において、XML による復元に失敗する不具合を解消。
- 4) その他微調整

以 上